

ヤマザクラ

2016 年（平成 28 年）10 月 20 日（木）発行

「自然観察班」のご紹介

自然観察班・佐藤幸二

秋の夜長をいかがお過ごしでしょうか？

虫たちの合唱に心地よさを感じていると思います。

今宵は、私が担当している「自然観察班」のお話をしたいと思いますので 飽きないで聞いて欲しいと思います。

「自然観察班」は、一般市民を対象とした「自然観察会」を開催しています。

班として活動を開始したのは、平成 25 年 4 月からでした。

当時は、東日本大震災 とりわけ福島第一原発の事故に伴う 放射能の汚染問題があり野外活動に消極的な状況にありました。

いわきの森に親しむ会の活動の柱である「自然観察会」を再開する切っ掛けとして 自然観察班を設置しました。

スタート当初の「春の観察会」では、張り切って新聞等で大々的に参加者を募集しましたが、期待通りには行きませんでした。

夏になり 初めての企画の「夜の生き物観察会」では、予想に反した反響があり募集定員を超える応募があり、これはと気持ちも盛り上がったのですが、秋に実施した三崎公園自然観察会では応募者が「ゼロ」など苦しい時期もありました。

これまでの努力の甲斐もあって いくつかの人気イベントも生まれつつあります。

夏の「夜の生き物観察会」、秋の「落ち葉のカレンダー作り&秋の自然観察会」、そして竹材教室「バランストンボ作り」や「ミニ門松作り」等など

自然観察班の最大の特徴は、それぞれのイベントの担当者（責任者）が、企画から実施するまでを自分の裁量で出来る事です。

自然好きな本人のポリシーを最大限に生かすことで オリジナルなイベントを生み出して居るものと思います。

そんなオリジナル性が発揮できていることから 次々と人気イベントが生まれ出していると思います。

これからも、こんなポリシーを堅持しながら、少しずつ前に進んで行きたいと思いますので ご支援、ご協力よろしくお願ひします。



◇春の自然観察会



◇夜の生き物観察会

森林整備班の活動

1. 森林整備班の定例活動一覧表

(2016, (H28). 07. 20~10. 5)

月/日	曜	実施項目	参加人数
7/20	水	栗園跡地下刈り	3
7/23	土	海岸林下刈り作業支援	6 (2)
7/30	土	海岸林下刈り・補植支援	4 (3)
8/3	水	檜間伐・搬出	4
8/6	水	薪割作業	3
8/10	水	薪割作業	3
8/20	土	工具点検整備	3
8/31	土	栗園跡地整備計画 (現地調査)	5
9/3	土	台風による倒木処理	3
9/7	水	整備計画打合せ	5
9/14	水	山荘周辺の草刈り、仮払い	4
9/17	土	苗木散水ポンプ座の整備	5
9/21	水	〃、ビニールハウス移設	7 【3】
9/28	水	工房南斜面の草刈と下刈	4
10/1	土	池への侵入防止柵を設置	2
10/5	水	工房周辺の整備 (ヒマラヤ杉伐倒)	6
計		稼働日数 17日	67 (5) 【3】



栗園跡地の整備について今井辰雄氏に指導を受けた今井氏の主な指導内容は、

- (1) 将来のどのような森林とするのか目的を明確にすること。
- (2) 植栽樹種の将来の樹形を見て剪定作業を早めの (枝が直径 1cm 以内) の実施。
- (3) 病や生育に問題等がある苗木については植替えや萌芽更新を判断せよ。

○苗木畑の整備としてビニールハウスの移設を行うことになり 9/21 定例整備日を含めて 9/26 (月)、9/27 (火) 延べ 3 日でビニールハウスの移設を完了させた。(伊藤)



ビニールハウスの移設

() フクシマ環境未来基地メンバー

【 】ワークキャンプ参加者

今回の活動は熱中症に最大の留意を払い、栗園跡地の下刈り・海岸林再生支援、山荘周辺フィールド整備から苗木育成に必要な散水設備の準備・ビニールハウス移設と育樹祭の準備と多彩な活動でした。主な事項は

○栗園跡地の将来と育樹について 8 月 31 日に県OBの樹木医で林業専門技術員であられる今井辰雄氏のアドバイスをいただきました。

育樹祭のお知らせ	12
秋の研修会が開催される	11
国際ワーキングキャンプ	10
夜の生き物観察会	9
開催日	
1 平成 28 年 8 月 21 日	
2 平成 28 年 9 月 18 日	
3 平成 28 年 10 月 16 日	
ろうきん森の学校	7
ろうきん森の学校理事長賞	7
親子自然探訪会が行われる	6
1 支援内容と回数	
2 その他の活動	
プログラム勉強会グループ活動	5
木工クラフト班の活動	5
キノコ班の活動	4
稲刈作業	4
農作業 2016 年秋の活動報告	3
森林整備班の活動	2
1 森林整備班の定例活動	
2 海岸林再生整備参加者	
「自然観察班」のご紹介 佐藤幸二	1
目次 (主な内容)	P

○今年度も本会主催の育樹祭を 12/3（土）栗園跡地で開催の予定です。

それまでに山荘から徒歩で自然観察を行いながら現場まで行ける観察歩道を新設することとしました。

歩道の新設作業は本会所属の「ふくしま・グリーンフォレスターの会いわき支部」会員方々を主に森づくり技術のスキルアップを兼ねて実施します。9/30（金）観察歩道現地踏査を実施、ルートが決まりました。今後本格的に作業開始となります。新ルートですので観察道の特徴を確認する上でも多くの会員の方々の参加を歓迎します。今後の予定は 10/21、11/4、11/18、11/25 何れも金曜日です。



観察歩道ルート設定作業

2. 海岸林の再生整備参加者数

(2016.7～10月)

月/日	整備内容	本会 トチギ	ボラン ティア	その 他	計
7/23	下刈	8	48	—	56
7/30	地拵え、下刈	5	29	—	34
8/6	地拵え、下刈	1	21	—	22
8/7	〃、〃	1	21	—	22
8/27	〃、〃	2	4	—	6
9/4	地拵え、下刈	2	4	—	6
9/24	〃、〃	3	3	—	6
10/9	下刈、植樹	12	138	—	150
10/15	〃、〃	3	66	—	69
	計	37	334	—	371

農作業 2016 年秋の活動報告

農作業班 太田

1. さつま芋の収穫作業を行いました

9/18、森の学校

3名で雨の中、雨具を着て芋堀り。紅東を約 10kg 収穫しました。

5月9日に苗植え付け、除草やツル返し等を経て収量はまずまずの出来でした。

○海岸林再生整備作業の主な写真

・写真：1

7月23日（土）東北電力海岸林下刈スナップ



・写真：2

10月9日（日）いわき青年林業会議所主催によるトヨタ自動車と福島トヨペットでは～美しい海岸林を再生しよう～と新舞子海岸に於いて下刈りや地拵え行いクロマツ 300本の植樹を行いました。参加者は県内各地より 150名でした。このイベントは「東日本大震災の津波で被害を受けた海岸林の本来の機能を取り戻す」ことが目的です。

しかし、新舞子を訪れる度に枯れる松が多数発生しているのが気になります。

将来この目的が達成され美しい海岸林となることを祈念したいと思います。

本会では下刈りや地拵え植樹作業に支援協力しました。



参加者によるクロマツの植樹作業

(伊藤)



さつま芋の収穫作業（芋堀り）



さつま芋の収穫

2. 水不足のため、ポリタンクで畑まで運搬作業

梅雨明け後の乾燥で、水が不足したため、山荘の雨水タンクから軽トラで運搬。

7/25、8/8、各 1600L を畑の貯水槽に給水する。（今年の5月に続いて2回目）



雨水タンクへ給水作業

3. 苗の植え付けと種まき作業

各種野菜の種まきと苗植え付けを行いました。

- 1) 9/5 ; ラッキョウ、9/10 ; ダイコンと大蕪、
- 2) 9/24 ; タマネギ 等。
- 3) 9月以降、雨が続いて雑草の成長が早く、除草作業が追い付かず。

3. その他

- 1) 7/11、じゃが芋の収穫、7/25、枝豆の収穫を行いました。カボチャは不作に終わりました。
- 2) ブルーベリーの収穫を7/23、8/1、8/8、8/13に行いましたが、今年も豊作でした。
- 3) 農道周辺の刈払い機による草刈り ; 7/7、9/7、9/12、9/26、10/3 に実施。
- 4) 昨年夏以降、イノシシの侵入が無く、この地区周辺での目撃情報も聞かなくなりました。
- 5) 会員の高齢化により、夏場の作業は体力的にきついのと、安全のためにお盆前後は作業を休むことにしています。

稲刈作業

好間「冬水田んぼ」の稲刈りが下記により実施されました。

- 1.平成 28 年 9 月 25 日（日）9：00～12：00
- 2.参加者 本会員 7 名

（自遊学キャンプ スタッフ 2 名、参加者 16 名）

今年稲刈りして感じたことは、稲束はずっしりと重く豊作と思われます。ただ「冬水田んぼ」の特徴である地面が柔らかくぬかるのは当たり前ですが、先週は台風 16 号の影響で尚一層厳しいものとなりました。

自遊由学キャンプ参加児童もぬかるみはまり移動には悪戦苦闘でした。でも、その水たまりにはアメリカザリガニが数多く生息しておりそれを追いかけて捕まえる等大歓声の稲刈りでした。



悪戦苦闘する自遊学キャンプ参加児童

自由学キャンプ参加児童はその後、田植え時に植え付けたサツマイモの収穫を体験しました。（伊藤）

キノコ班の活動 荒川・松本（學）



写真上から 9/30 収穫のマイタケ、10/7 ナメコの収穫が出来ました、10/19 収穫のヒラタケ

今年もキノコの収穫が始まりました。上の写真は 9 月 30 日に収穫したマイタケです、10Kg を超える収穫でした。また、ナメコも出始め 10 月 7 日に第一回の収穫が出来ました。10 月 19 日にヒラタケを収穫しました。今年是好調です、今後は楽しみです。

木工班のH28年7～9月の活動

今季から女性は1名新加入して7名になり、男性は従来通り7名で、その他講師役が3名の合計17名で実施しています。

男性はレターケース、女性はざる蕎麦盛り付け容器（写真）及びサイドテーブル（作成途中）を実施しました。

今年購入した電動ロクロの取り扱いの講習は男性のみ終了しました（桑原）

〔木工班活動は毎月第1、第3火曜日に実施〕



ざる蕎麦盛り付け容器



レターケース作成状況写真

プログラム勉強会グループの活動

佐藤 烈

去る8月4日仙台市で平成28年度夏大会「学校の森子どもサミット in 宮城県」が開催されました。

このイベントは林野庁、国土緑化推進機構を中心にニッセイ緑の財団、やセキスイなどの協賛団体で組織されたグループが実施しているもので、今年で3年目になるとのことです。

その内容は、子どもサミットの名のとおり、学校での環境学習・活動を子ども自らが壇上に上がり話をするもので参加したのは北海道から鹿児島県まで11の小学校の5,6年生でそれぞれが恥ずかしがることもなく、しっかりと落ち着いて発表していました。

私たちの時代とは違い自分たちで調べ、まとめて発表するというトレーニングがよくなされていると驚かされました。

私たちが行っている学校支援においても最後に1年間の活動をまとめた発表会に招待されることがありますが、3、4年生ながら、なかなかのものです。

1 支援内容と回数表

この四半期は次のとおり10回の支援を行いました。

(1) 学校等における学習支援活動（7/1～9/30）

月日	学校名	学年	学習	参加者	支援者
7/11	錦東小	3	総合	24	6
7/14	中央台北小	4	総合	69	9
9/1	平6小	3	総合	42	0
9/13	高野小	6	総合	8	2
9/26	錦東小	3	総合	24	6
9/28	江名小	3・4	森林環境	29	10
計	支援学校 5校			196	43

(2) その他の支援活動（7/1～9/30）

月日	団体名	対象	項目	参加者	支援者
7/10	小名浜公民館	親子	木工クラフト	12	4
7/24	市環境企画課	親子	自然探訪会	24	11
8/9	泉が丘放課後学童クラブ	小学生	木工クラフト	36	5
/24	市環境企画課	親子	自然探訪会	19	10
計	4団体	—	—	91	30

以下に7/11の錦東小の総合学習支援と8/9の泉が丘の放課後学童クラブでの木工クラフト支援の概要を紹介します。

7/11の錦東小の総合学習支援は今年度の第2回目となります。今回は最初に校庭で決めた班の木を2回目までにどれだけ観察していたかを確認し、子ども達の意欲や関心の強さを測り、場合によってはその後の接し方を工夫する必要も出てくるのですが、今回はその心配もなくよく観察しており、詳しく話してくれました。

また、魔法の水を使って花の色が変わる実験をしましたが、好評でいろいろな花を自分たちで探してきては実験していました。



(写真：色の実験)

8/9は今年度初めて依頼があったものです。泉が丘ハイタウンで放課後学童クラブを運営しているところで、夏休みは、朝から子どもを預かっているのでいろいろと工夫が必要かもしれません。

1年生から5年生まで33名にメッセージボードを作ってもらうことにしました。午前中かけいろいろな作品ができました。



(写真：出来上がった作品)

II その他の活動 (4~6月)

- (1) いわき明星大学の学校林の管理及び整備
 - 7月：4、11、18、25 支援者延8名
 - 8月：8、15、22、29 支援者延8名
 - 9月：5、12、21、26 支援者延8名

親子自然探訪会が行われる

佐藤 烈

去る7月24日(日)と9月24日(土)に自然探訪会が開催されました。

これはいわき市が今年度から新規に立ち上げた小学生を対象にした身近な生きもの調査事業の一環として、自然の中でいろいろな植物や動物を観察する機会を設けようと企画されたものです。

担当する環境企画課の職員から自然を散策する経験が初めての親子でも安全に、そして楽しめるコースがあり、天候が悪くても避難できるところがあり、押し付けでなく参加者にあわせて楽しく案内してもらえるガイドによる探訪会をしたいとの相談を受けました。

そこで湯の岳山荘周辺の散策コースを使い、当会の会員によるガイドで実施するのが最もよいのではないかと提案をし、その案でよければ、早めに施設の利用申し込みを行い、その際事業の概要を説明して協力を依頼するよう助言しました。

その結果7月と9月に実施することに決まり、観察班とプログラム班を中心に当日の対応に当たりました。

参加者は、募集が15組30人に対し7月の1回目は11組22人、9月の第2回目は7組19人と定員には達しなかったものの参加者は、みるものすべてに興味を示しとても楽しそうでした。



自然探訪出発前のミーティング

今回は観察会の後に各自途中で拾ったり、捕まえたものを山荘に持ち帰り、図鑑などで名前などを調べてその内容を皆の前で発表するという行ってみましたが、予想以上に上手にできており、昔とは違い人前で、まとめて話をするという訓練がしっかりされていることがわかりました。



自然探訪（自然観察会）の様子

2回とも参加した親子もおり、この事業は好評だったようです。

また、案内する側も人数を多くそろえたため、各班の人数が少なくなり、案内しやすく、楽しく案内できたという感想がありました。

時間は9:00～12:00まで

「ろうきん森の学校」理事長賞

労働金庫連合会は17日、同会が活動資金を支援する「ろうきん森の学校」が、「第5回いきものにぎわい企業活動コンテスト」で公益財団法人国土緑化推進機構理事長賞を受賞したと発表されました。

12月9日に東京都で表彰式がおこなわれます。

これは、企業などの生物多様性の保全など、優れた活動を顕彰するコンテスト。

ろうきん森の学校は、富士山地区のNPO法人ホールアース研究所を主管団体として労働金庫連合会が活動資金を支援し、里山再生をテーマに森林整備活動や自然体験などに取り組んでいます。2005（平成17）年に福島県地区では本会、広島地区ではNPO法人ひろしま自然学校では3地区で始まりました。

2015（平成27）年度からの10年間は、「第Ⅱ期」と位置づけ、活動拠点は、従来の3地区を継続するとともに、新たに2地区（新潟地区がNPO法人魚沼伝承館、岐阜地区ではNPO法人グリーンネットワーク）が増設され合計5地区で活動中です。

ろうきん森の学校 若森秀樹

（平成28年8月21日～10月16日）

I. 平成28年8月21日（日）（天候快晴）

1. 実施内容

①自然観察会、②和紙づくり③野外料理

2. 参加者 30名

3. 実施結果

①自然観察会、②和紙づくり

昆虫観察班と和紙づくり班2班に分かれて実施しました。昆虫班は虫大好き親子と虫平気女子の参加があり昆虫も生き物の発見に大変な喜びようでした。（観察された主な昆虫生き物：クワガ

タ、テントウムシ、ウスバカゲロウ（アリジゴクの観察）。

沢蟹、アカハライモリ）



バンガローの下にもぐり、アリジゴクを観察
和紙づくり班は和紙の原料であるコウゾの観察そして枝の採集、和紙をつくりました。



コウゾの樹皮を剥ぎ和紙原料づくり



色紙を散りばめた可愛い和紙が出来ました

II. 平成 28 年 9 月 18 日 (日) (天候雨)

1. 実施内容
①自然観察会、②農作業体験③野外料理
2. 参加者 35 名
3. 実施結果

①自然観察会、
今回は降りしきる雨の中、傘と長靴の重装備でフィールドへ。出発まもなく雨が激しくなりガンガローの下に避難、アリジゴクを観察していましたが観察会を切り上げ木の枝ペンダント作りに変更しました。



雨の中、森の学校看板前で

②農作業体験
本来なら畑に入ることは控えるべき雨の中でのサツマイモ収穫作業体験でした。



雨の中でのサツマイモ収穫作業体験

③野外料理 (サツマ・マコモの天ぷら等)



野外料理試食風景

III. 平成 28 年 10 月 16 日 (日) (天候快晴)

1. 実施内容
①自然観察会、②ドングのクッキー作り
③野外料理
2. 参加者 35 名
3. 実施結果 ①自然観察会、

現在整備中の栗園跡地への新観察コースを案内しました。
新コースが沢あり変化に富んだ楽しいコースでした。



沢での水生し生物の観察 (サワカニを観察出来た)

キノコを期待しておりましたがヒラタケとキクラゲが少々ながら発見、残念な結果でした。

②ドングのクッキー作り・③野外料理体験
今回初の企画 ”木の実入りのパンとクッキーづくり” に挑戦、マテバシイの実の取り出し・クルミ割りし実の取り出し等 を楽しみました。とても美味しいクッキーとパンに驚きました。



上、クルミを割り実の取り出し・



下、焼きたてのクッキー

当日はあまりにも天気が良いので、ソーラークッカーで目玉焼き料理を体験、試食していただきました。結果は好評でした。

夜の生き物観察会 (自然観察班活動報告)



夜の観察会参加者 出発前の集合写真

今年で3回目となる「夜の生き物観察会」が県営いわき公園にて7月30日(土)18:10~20:50に開催しました。年々大人気のイベントとなり、参加者は53名(大人25名、子供28名)でした。

この中には労金連合会の方々の参加がありましたのでお知らせいたします。

観察会は5班編成でスタッフは15名で対応いたしました。



白い花(ウバユリ)を観察

今回の観察会で出会った主な生き物は、シマヘビから始まりザトウムシ、コクワガタ、タマムシ、ナナフシ、ムカデそしてセミの羽化と蛭を観察出来たことが最高でした。そして、何よりも無事故終えることができました。



夜の公園の観察の様子

興味は生き物、ライトアップで観察。



懐中電灯で照らし観察

平成28年 夜の生き物観察会を終えて

7/30(土)、今年も『夜の生き物観察会』を県営いわき公園で行いました。私が担当してから4回目の観察会です。例年通り多くの方が参加され、今年は大人25人、子供28人、スタッフ15人で5班に別れ、ワクワク、ドキドキ楽しく夜のいわき公園内を散策しました。蟬の羽化やホタルを見ることができ、子供たちの嬉しそうな笑顔も見られ、怪我人も出なかったので、大成功と言っていいと思います。

観察会終了後のスタッフ振り返りでは、次回に向け貴重な意見も多く出ましたので、色々検討し、来年も充実した楽しい観察会を実施して頂きたいと思います。

以上 鈴木 勤(記)

国際ワークキャンプ

9月20日から29日までの10日間、国際ワークキャンプを湯ノ岳山荘を中心に行いました。国際ワークキャンプとは、世界の若者達が共に生活しながら、住民たちと森や田畑の手入れ、子供の世話、祭りの運営、古民家の修復など地域で必要とされる活動に取り組む合宿型ボランティア活動です

1920年、独仏の若者が戦争で壊された農地を再建したのが始まりで、日本では1990年に海外で国際ボランティアに参加した若者7名が、日本国際ワークキャンプセンター（NICE=ナイス）を結成し、以来国内外において活発に活動しております。

今回、NICEから要請をうけ行いましたが、当初は外国人2名日本人3名の予定でしたが、事情により日本人3名のキャンプとなりました。10日間の主な作業は次のとおりです。

月/日	午 前	午 後	ワーキングキャンプ参加者	地元メンバー	計
9/20	—	オリエンテーション 湯ノ岳フィールド視察	3名	—	3名
9/21	湯ノ岳フィールド整備 (ビニールハウス解体)	湯ノ岳フィールド整備 (不要木伐採等)	3名	—	3名
9/22	白河里山整備	白河里山整備	3名	—	3名
9/23	湯ノ岳フィールド整備 (物置解体作業)	湯ノ岳フィールド整備 (不要木伐採チップ処理)	3名	2名	5名
9/24	河岸林整備	海岸林整備	3名	2名	5名
9/25	栗園跡地整備 (下刈)	栗園跡地整備 (下刈)	3名	1名	4名
9/26	休 み	休 み	—	—	—
9/27	栗園跡地整備 (下刈)	栗園跡地整備 (下刈)	3名	1名	4名
9/28	湯ノ岳フィールド整備 (観察コース整備)	湯ノ岳フィールド整備 (観察コース整備)	3名	1名	4名
9/29	清掃 振り返り	—	3名	—	3名
計	—	—	27名	7名	34名

参加者には森づくり関係作業について、いろいろな体験をしてもらおうと考え、道具の使い方、手入れの仕方などについて安全第一に学んでもらいました。

振り返りの中でも、全員それなりの達成感があつたようで安心しました。10日間一緒に活動した感想としては、思っていた以上しっかりした若者がいるということでした。そして、多くの元気をいただきました。(松崎)



栗園跡地整備（下刈）



観察歩道の整備

秋の研修会が開催される

佐藤 烈

去る10月9日（日）と翌10日（月）の2日間にわたり山梨県南アルプス市在住の時田 恵先生をお招きし、研修会を行いました。

今回は、当会が11月から12月にかけて実施予定のいわき自然案内人養成基礎講座に向けて講師やサポートするメンバー間の共通理解とカリキュラムの内容の検討等を目的に実施しました。その概要は次のとおりです。

10/9 午前

(1) ワークショップ

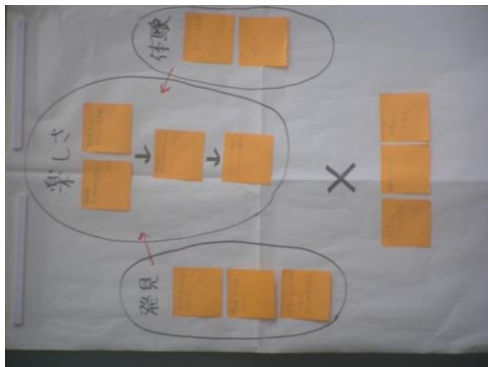
3班編成

- ・佐藤幸二班（木田、若森）
- ・鈴木正明班（猪村珠、深瀬、佐藤ア）
- ・津崎 順班（猪村武、桑原、吉田良子）

質問①あなたは自然観察のどんなところが好きですか。

質問②どのような自然観察会をしたいですか。

各班の答えは、模造紙のとおりです。



ワークショップ作業の様子（山荘に保管）

各班・参加した各人の目指す自然観察・自然観察会の姿は次のとおりでした。

「リーダーも参加者も楽しめるような観察会を、目的を持って、知識の押し売りにならないように、リスクマネジメントに気をつけながら実施し、自然を大切にする心を育てる。」

(2) スライドを使った講義、その項目は次のとおりです。

① 指導法のいろいろ

紙芝居、ピクチャーカードの活用、ゲーム
まとめでは新聞をつくったり、作品を作ったり、調査をしたり

② 観察会の準備と運営

プランニング、広報・募集、下見（時間配分、ポイント、危険個所、トイレ、駐車場、集合場所、自然への配慮）、当日の運営、まとめと解散、反省会

※ 安全対策については、Field Guide シリーズ「危険な生物」を参照

③ 指導員として身につけること

その哲学は引き出すこと

○いまここで見られるものを大切に

○コミュニケーションを大切に

④ どんな指導員になりたいか

逆に困ったリーダーはこんな人

○直ぐ怒る、うそを教える、声が小さく何を言ってるかわからない、優柔不断、知識をひけらかす、きついコースを連れまわす、リーダー、サブリーダー等関係者だけで盛り上がってる、参加者を危険にさらす、フィールドマナーを守らない。

⑤ 指導員の評価は

自己の評価、参加者の評価、指導員同士の評価、社会の評価

毎回何をもって良しとするか決める。次につながるような評価をすべし

午後

(1) 野外活動

時田先生のモデルプログラムの実演

① 広場にて（スケッチウオッチング）

② 表現ゲーム（4つのヒントから何かをあてるゲーム）今回使ったのはヒメクグ

③ サウンドスケープ（音探し）、場所と時間を考えて、

④ 虫探し（捕まえてケースに入れ皆で観察）

⑤ 菊の仲間探し

⑥ クモの観察（嫌われ者の観察）



野外活動で音探しの様子

参加者の実習のための時田先生による素材の探し方※ミズキの葉の導管、つる植物、サルスベリの葉のつき方、アメンボ遊び、エノコログサの実とノギ、ススキの実・花・おしべ・めしべ、ウツギの葉のざらざらの理由を見つける、ススキの葉の縁の観察とその特徴を使った遊びの工夫など。

10/10 午前

- (1) 前日の振り返り
- (2) 採集についての原則と例外
- (3) リスクマネジメントについて(小さな約束)
- (4) プログラム作りについて(配布資料参照)
- (5) 昨日の※を素材にして室内で次の班ごとにリーダーが模擬実演

班分け

- ・佐藤幸二班(野木、若森)
- ・鈴木正明班(猪村珠、深瀬、武藤)
- ・津崎 順班(猪村武、木田、佐藤 烈)

- (6) 上記の班ごとに外で素材探し



奥内での研修スナッフ

午後



- (1) 外で班ごとに実演と評価を実施
終了 15:40

育樹祭のお知らせ

- 1.主 催 いわきの森に親しむ会
- 2.開催日時 平成 28 年 12 月 3 日(土)
9:00~12:00
小雨決行(強風雨時は中止)
問合せ先:湯ノ岳山荘 TEL44-3273
お昼には軽食を用意しております
- 3.場 所 湯ノ岳山荘・栗園跡地
- 4.募集人数 先着 50 名
申込期日 11 月 29 日 15:00 時まで
申込先はFAXで 湯ノ岳山荘 TEL44-3273
(住所、氏名、年齢、性別、電話番号を記載して)
- 5.服装等 作業に適した服装
長靴など、雨具、軍手、飲み水など
- 6.育樹内容
カエデの植樹と移植
(イロハモミジ、エンコウカエデ、ウリカデデ他)、
参考
・育樹会場までは、自然観察を含めて移動します。(距離は約 1km 弱です)

編集後記

10 月中頃から急に気温が下がり衣服もちょっと厚めの生地のものを着るようになりました。時々思い出したように暑い日もあり体調を崩してマスクをしている人がまわりにちらほら見受けられます。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

夏から秋へかけての季節でイベントや活動が多くありましたが、担当の方にはお忙しい中、記事を書いていただきありがとうございます。前回から編集を担当しておりますが、今号は以前に担当していただいた伊藤さんに作成をしていただきました。次号も伊藤さんにはお手伝いをしていただいで完成させたいと思います。

紅葉も見ごろとなってきました。楽しい仲間とおでかけしたり、素敵な時間をお過ごしください。

鈴木小百合

(発行) NPO 法人いわきの森に親しむ会
(発行責任者) 木田章一(編集担当者) 鈴木小百合
(事務局) 〒972-8326 いわき市常磐藤原町湯ノ岳 2
湯ノ岳山荘内

TEL/FAX 0246-44-3273

E-mail:yunodake@gray.plala.or.jp

HP:http://iwaki-mori.jimdo.com/